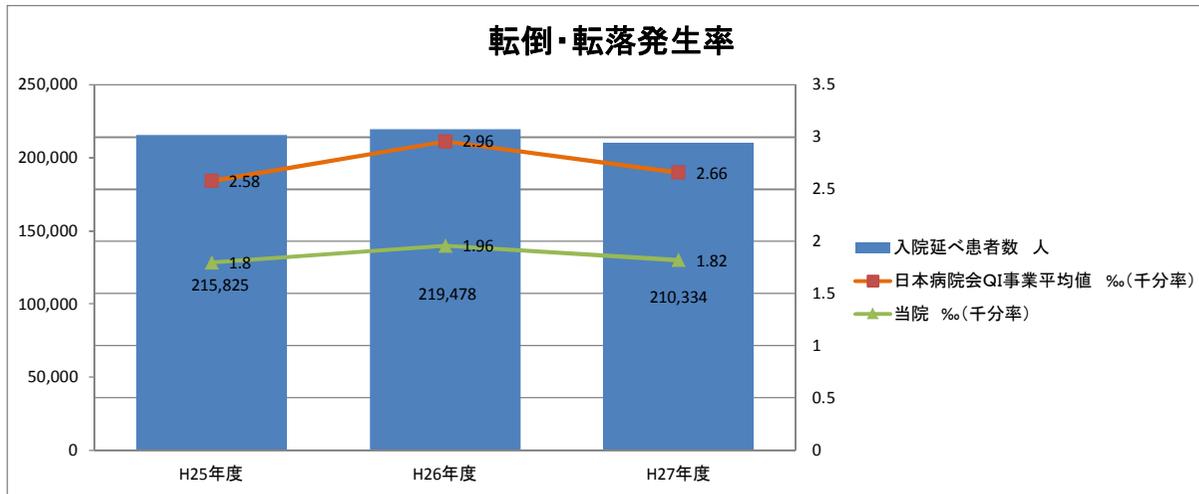


転倒・転落発生率



計算方法

分子	医療安全管理室へインシデント・アクシデントレポートが提出された転倒・転落件数
分母	入院延べ患者数

指標の解説

- ・入院中は、入院生活という生活環境の変化によるものや、病気そのもの、治療、手術、薬剤などの影響により、自宅にいる時以上に転倒、転落のリスクが高くなります。
- ・転倒・転落は骨折などの損傷に結びつく危険姿勢が高く、病状の回復の遅れや日常生活の動作に支障が出るなど、患者さんの生活の質に大きな影響を及ぼします。転倒・転落を100%防止することは難しい現状ですが、発生件数や事例を追跡し分析することで、転倒・連絡による損傷の低減に役立てています。

結果・考察

- ・当院では平成24年度より、毎年400件弱の転倒・転落の報告が出されています。患者さんの年齢や身体状況、疾患・治療内容が関連していると考えられます。
- ・転倒・転落のリスクアセスメントや転倒・転落防止対策を患者さんご家族のご協力をもとに行い、重篤な損傷に繋がらないように取り組みます。

転倒による損傷のレベル	
レベル	説明
1 なし	患者に損傷はなかった
2 軽度	軽度 包帯、氷、創傷洗浄、四肢の挙上、局所薬が必要となった、あざ・擦り傷を招いた
3 中軽度	中軽度 縫合、ステリー・皮膚接着剤、副子が必要となった、または筋肉・関節の挫傷を招いた
4 重症	重度 手術、ギプス、牽引、骨折を招いた・必要となった、または神経損傷・身体内部の損傷のため診察が必要となった
5 死亡	死亡 転倒による損傷の結果、患者が死亡した
6 UTD	UTD 記録からは判定不可能